

岡山大学図書館における学生のための取り組み事例

～継続×変化はチカラなり～



事例1. ほぼ毎月情報発信！ 電子ブック広報

アピールポイント① ほぼ毎月継続して広報を実施

月に1度、学生一斉メールで電子書籍に関する情報発信を行っている。学生のニーズにあわせて月ごとにテーマを変更し、メールのほか、HP、館内ポスターでも同時に広報を実施している。

コロナ禍による遠隔授業の増加より電子書籍へのアクセス数が急上昇したため、高まるニーズを適切につかみ、利用促進を図るために2021年8月より広報を開始。以降、2025年6月現在にいたるまで継続して実施している。



図書館HP(トピックス、スライダー)

館内ポスター

アピールポイント③ 統計分析を行い、効果を測定

電子書籍の利用統計分析を定期的の実施し、広報の効果を測定。

・月間利用統計調査
プラットフォームごとに月間のアクセス数上位20位のコンテンツをチェック。
Kinodenの場合、語学関係のコンテンツへのアクセスが多いので、それらを除いて統計を分析。

アクセスの多い電子書籍を確認し、次回以降の広報と資料選定に活かしている。

●データサイエンス関連の電子書籍が増えました！			
No.	コンテンツ名	出版社	アクセス数(前月No.)
1	バイオインフォマティクスのための生物科学入門	コロナ社	119
2	動物研究の科学 第4巻	日本評論社	25
3	3D生物のしくみと進化	日本評論社	22
4	MATLABとデータ解析の基礎シミュレーション	近代科学社Digital	14
5	ミクロ経済学入門	日本評論社	11
6	6つの視点から見る「経済学」の基礎知識	日本評論社	11
7	名作のたのしみ 文芸の基礎知識 小説入門 第1巻	学芸社	10
8	Pythonで実践 自然言語データの機械学習	学芸社	10
9	9月10日 第1巻 第1巻 第1巻	学芸社	10
10	10月10日 第1巻 第1巻 第1巻	学芸社	10
11	11月10日 第1巻 第1巻 第1巻	学芸社	10
12	12月10日 第1巻 第1巻 第1巻	学芸社	10
13	13月10日 第1巻 第1巻 第1巻	学芸社	10
14	14月10日 第1巻 第1巻 第1巻	学芸社	10
15	15月10日 第1巻 第1巻 第1巻	学芸社	10
16	16月10日 第1巻 第1巻 第1巻	学芸社	10
17	17月10日 第1巻 第1巻 第1巻	学芸社	10
18	18月10日 第1巻 第1巻 第1巻	学芸社	10
19	19月10日 第1巻 第1巻 第1巻	学芸社	10
20	20月10日 第1巻 第1巻 第1巻	学芸社	10
総アクセス数		476	150
前月		497	167
前年		378	295

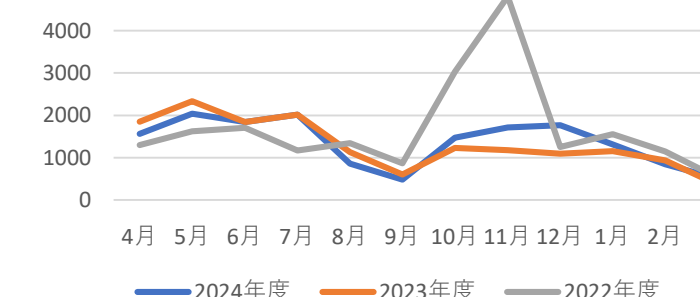
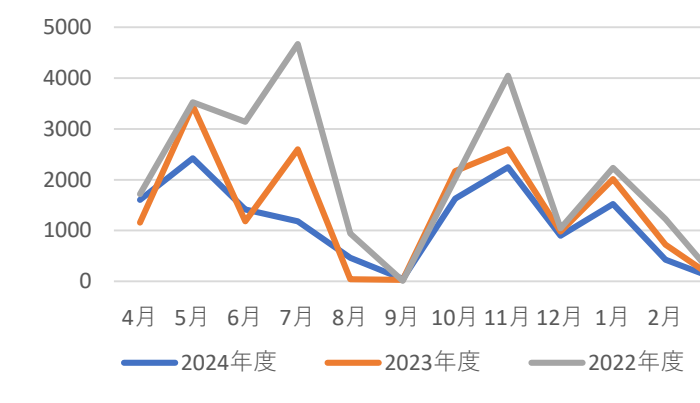
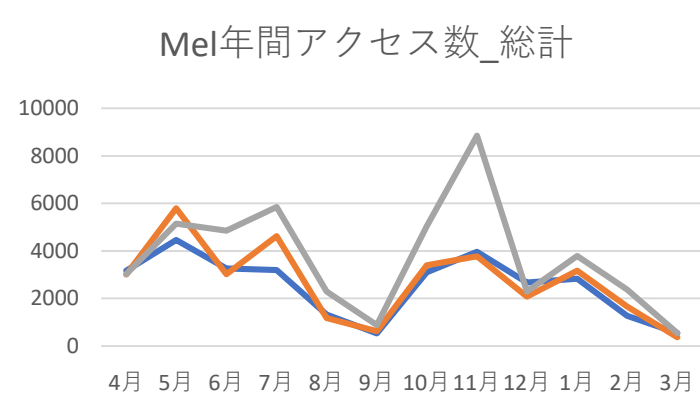
また、広報した電子書籍にアクセスがあることを確認することで、広報自体のモチベーションUPにもつながっている。

・年間利用統計

月間同様プラットフォームごとにアクセス数をチェック。

Mel(Maruzen eBook Library)の場合、アクセスの半数以上が多読資料となっているため、それらを勘案して統計行っている。

年間通しての学生のニーズを把握し、広報と資料選定に活かしている。

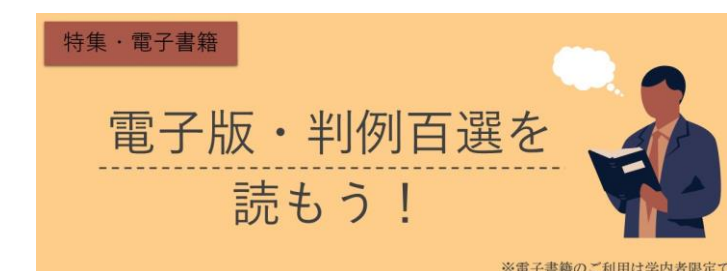


* 2022年10月に試読サービスを実施し、試読コンテンツへのアクセスが急増。

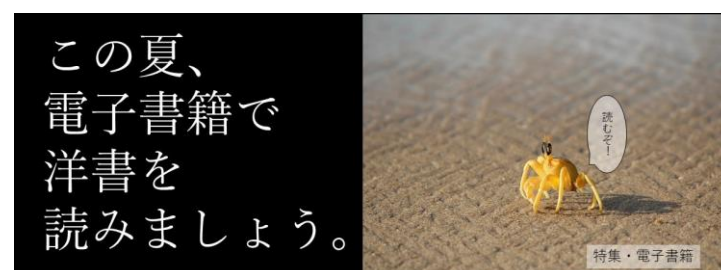
アピールポイント② 資料選定WGで実施

電子書籍の広報は、資料選定ワーキンググループ(以下、WG)が担当している。広報WGは別にあるが、資料選定WGが担当することにより、選定と広報のタイムラグを短縮でき、冊子体よりも発注から利用開始までのスパンが短い電子書籍の広報に適した運用となっている。

また、広報のテーマに合わせた電子書籍の選定もおこなっているため、様々なテーマの電子書籍について積極的に選定していくことができ、多様な蔵書構築につながっている。



電子書籍の活用方法特集

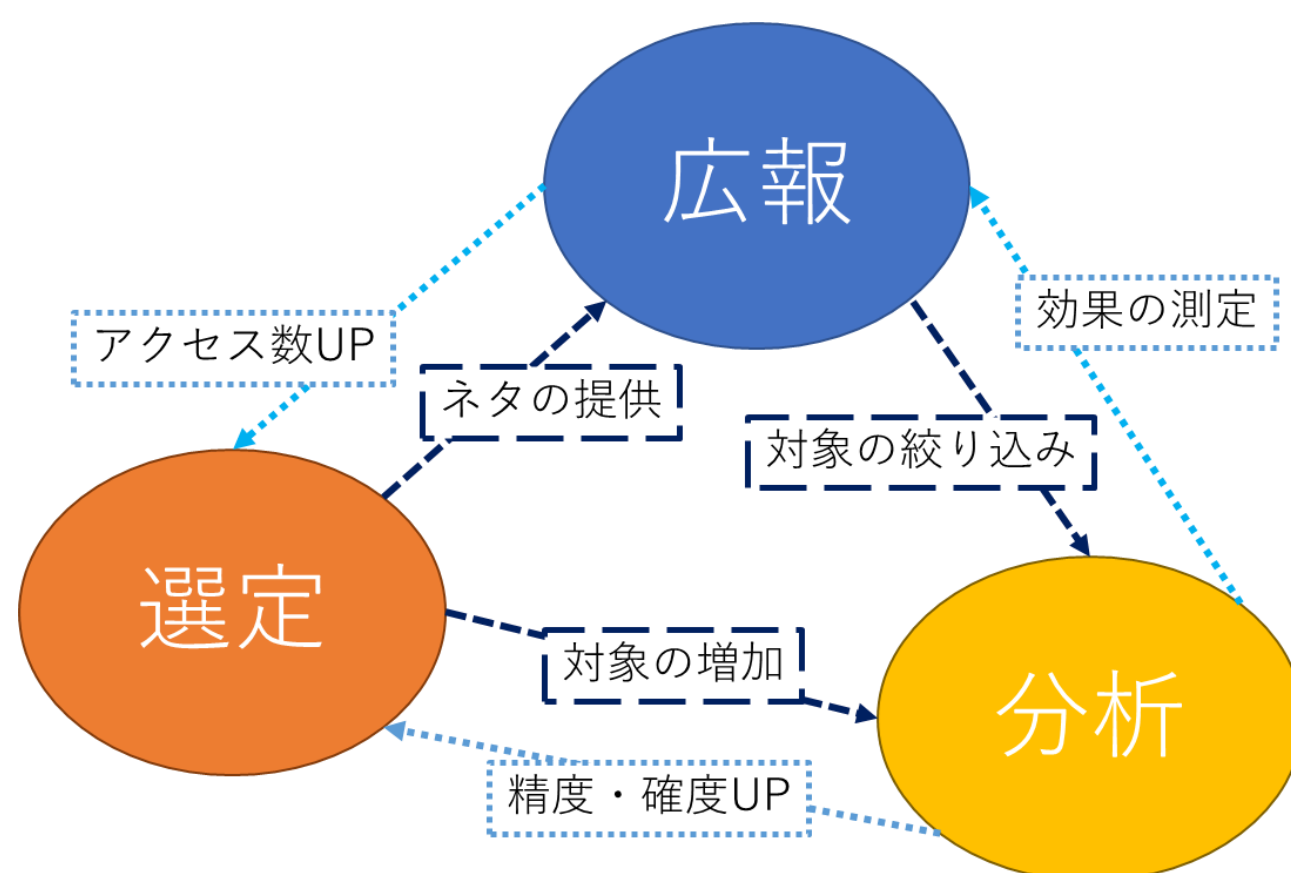


アピールポイント④ 広報・選定・統計分析の連動

広報と資料選定、統計分析を連動させて実施している。

いずれも、単独では継続して実施するモチベーションを保ち続けることが課題となるが、それぞれを連動させて運用することで、相互作用によりそれぞれの機能が活性化し、(紆余曲折はありながらも)継続して実施することができている。

また、それぞれの機能間のタイムラグを短縮することができるため、変化する学生のニーズや様々な状況に対し、柔軟かつスピーディーに対応することができる。



事例2. 通算30回以上開催！ 知好楽セミナー

知好楽セミナーとは？

グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとして、図書館が自らの知的空間を活用して、学生に向けて企画・展開する独自のプログラム。

「知好楽」という言葉は論語「子曰く、これを知る者はこれを好むものに如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。」による。参加者全員が「知」を「好」み、さらに「楽」しむ境地へと導くことを目指し、充実したセミナーを開催している。

アピールポイント① 2014年より10年以上継続して開催

アカデミックライティングの重要性が叫ばれた2014年、知好楽セミナーはライティング講座の1つとして、第1回「若手研究者のための英語論文セミナー：理系編」を開催して以来、学生の知好楽を目指して10年以上開催し続けている。

アピールポイント② 学生×○○で主体的な学びを促す

知好楽セミナーは、学生をメインターゲットとしているが、教職員はもちろん、地域の方など学外者でも参加できる。これは学生と学内外の不特定多数の人びとが、図書館というリアルな場で密な交流をし、学生の主体的な学びに繋がっていくねらいがあるためである。

知好楽セミナー34回分の歩み

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
若手研究者のための英語論文セミナー…理系編	大学生と論語くなぜ論語の素養が求められるのか	縄文スピリットから始まる新しい創造	レポートの書き方ワークショップ	連携講座新しい働き方第1回 小さな村から世界へ	連携講座新しい働き方第2回 誰にでもできる！田舎で始める 小さな暮らし	学術的文章の書き方アカデミック ライティングワークショップ	違いの分かる岡大生になろう(1) こたわりのマスターが語る 奥深き珈琲の世界	連携展示記念トーク「ミュージアムの舞台裏から」	地球を感じるー南極からサンゴ礁までー	岡山大学開学前夜ー岡山大学キャンパス 獲得にまつわるエピソードー	伝わるプレゼンテーション術	やさしい食堂こやま in Okada Library	現代短歌の作り方ー31字で伝える世界ー	美容師という仕事ープロが教えるヘアアレンジー	全国大学ビブリオバトル2017ー首都決戦ー 予選会 in 岡山大学附属図書館	International Book Day 附属図書館×L-café	やさしい食堂こやま in Okada Library 2	英語がナンボのもんじやい! でもやっぱり勉強するなら楽しくしようや	『屍人荘の殺人』今村昌弘講演会	International Book Day	人に生まれて良かったと思える、虫の話	市民とともに育つ図書館をめざして 瀬戸内市民図書館の実践	気象と音楽ー季節サイクルの中でみる ドイツや日本の「春」と「歌」ー	出会いと別れアインシュタイン氏の第3の次元	知を産み、育むー沢山美果子 『性からよむ江戸時代』を題材にー	2・4 次元のアートJAZZ ローカルとグローバルをつなぐ『線』	No Entryの内側でー世界遺産の保存科学ー	物語のある美術館ー大原美術館が生まれるまでー	カラー写真でみる1952年の岡山の街・人びと ーJ・ホルのいたミシガン大学日本研究所 岡山分室の遺産ー	はじめての人のための「愛生」ヲ読ム会	土田杏村と同時代の文化人たち	癌を起こす細菌の話ービロリ菌除菌のすすめー	絶望から希望を生み出すスラムの学校・ マゴンスクールーと共々歩んだ30年ー



知好楽セミナーについて

アピールポイント③ セミナー開催の相乗効果

知好楽セミナーのライティング講座をきっかけに、図書館内にアカデミックライティングの相談窓口を設ける動きに繋がった事例があった。またセミナー開催にあたり、セミナー講師作の彫刻作品でちょっとした館内展示を行ったり、所蔵する関連資料の展示を適宜行ったりしている。継続してセミナーを開催することで、新たなサービスが生まれたり、館内空間・資料の積極的な活用に繋がったりと、相乗効果が発生し、図書館サービスの機能的変化につながる。